

2021 年 1 月 7 日

国際ロータリー第 2790 地区
ガバナー 漆原 節子様
地区戦略計画委員会 御中

グループ再編成に関する意見

新千葉ロータリークラブ
会長 飯高 健

2020 年 12 月 22 日 標記の件文書に対し、改めて当クラブの意見を下記に申し上げます。

グループ再編成の実施は、2021-22 年度からではなく、内容を精査し、地区内クラブの意見を抽出し、議論を尽くして、全体の総意として皆が納得した上で行うべきである。

理由 (1) 漆原ガバナー、梶原ガバナーエレクトも月信記載の通り、周知や手法に問題があり地区内にかつてないほどの混乱が生じている。

(2) 新グループ編成案が、客観的に見て到底納得できるものではない。

① 地理的に明らかに不自然に離れているグループがある（地図参照）

② ガバナー補佐が担当するクラブ数が、ロータリー章典で推奨されている 4～8 クラブで遵守設定されている現状から、あえて 7～11 クラブにすることがクラブ数不均衡の是正とは全く思えない。

クラブ数の差はこれまでと同様 4 クラブのままであり、「ガバナー補佐に公平」ではなく、ガバナー補佐の負担が増えただけである。

月信特集号を拝読しましたが、大変よくできていると思います。

「上意下達」と言う言葉を事実使っていたにも関わらず、突如として民主的要素を強調されているあたり、驚き呆れたと共に称賛の意すら感じてしまいます。

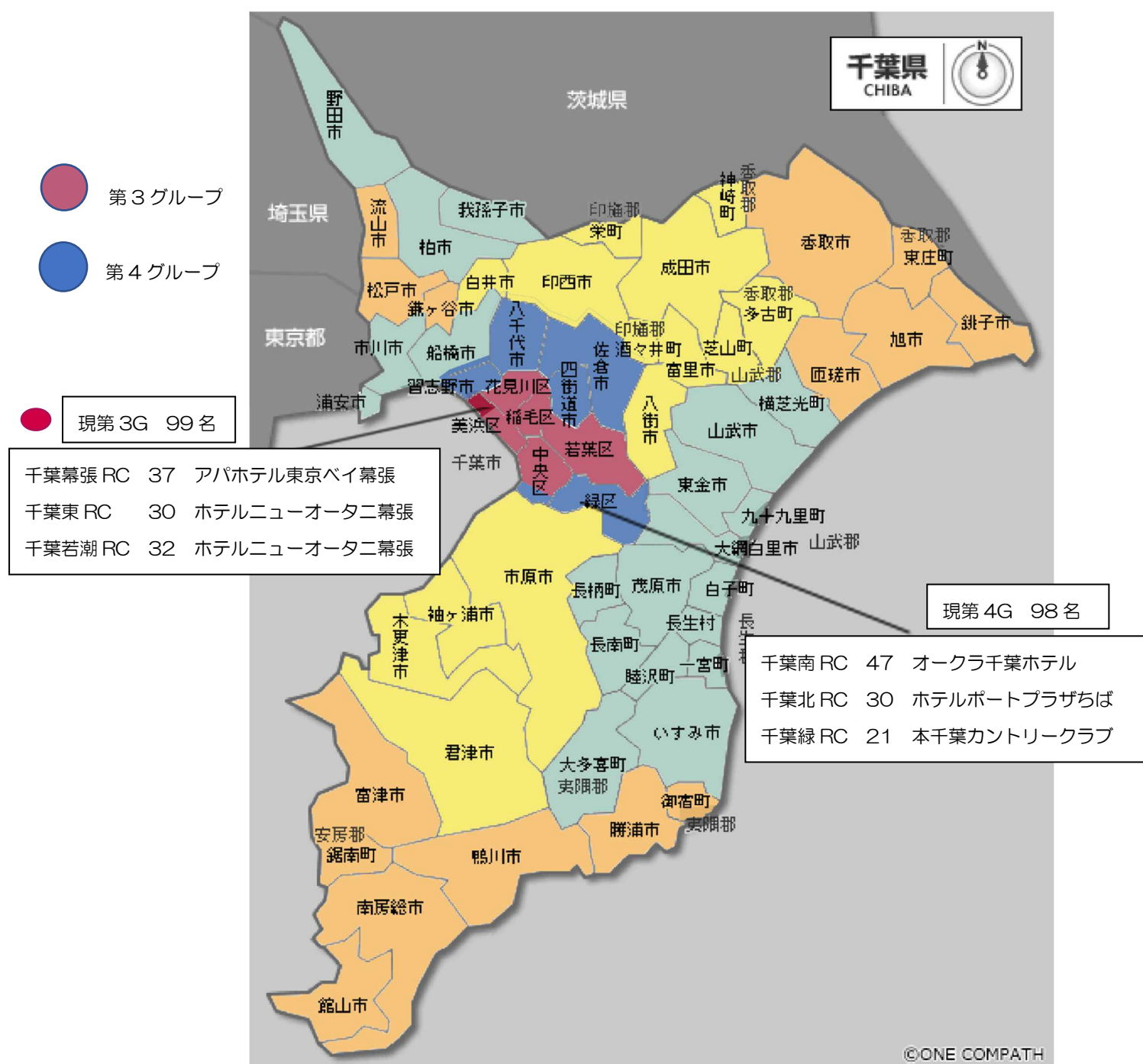
当クラブでも、グループ再編について漆原ガバナーに質問を行い回答をいただきましたが、論点のすり替えや質問に対する答えになっていない事が多々ある不誠実な回答で、全く納得できない内容でした。

今、真に必要なのは、「不退転の決意」＝「結論ありき」ではなく、「各クラブの意見を聞いた上での熟考と再考」ではないでしょうか。

地区内が混乱し、ガバナー、ガバナーエレクト、地区戦略計画委員会がこぞって「深くお詫び」をするのであれば、急がず、当初案通りに 2022 年度から開始とすればよいと考えます。

梶原年度で、更なる再編を準備検討とのことですが、今回のグループ再編成に不備があることを認めているということでしょうか。そうであれば、ゆっくりきちんと検討してから、実施すればいいことです。更なる再編成は、混乱を深めるばかりです。

また、小倉ガバナーノミニーが「82 クラブの全部をシャッフルして新たな組み分けをしたと考えればいいのでは」と簡単におっしゃっていますが、それならいっそのこと、本当に全部をシャッフルして 1 グループ当たりのクラブ数、人数を同数にした方が、より「みんなに公平」で「みんなが納得」できるのではないのでしょうか。



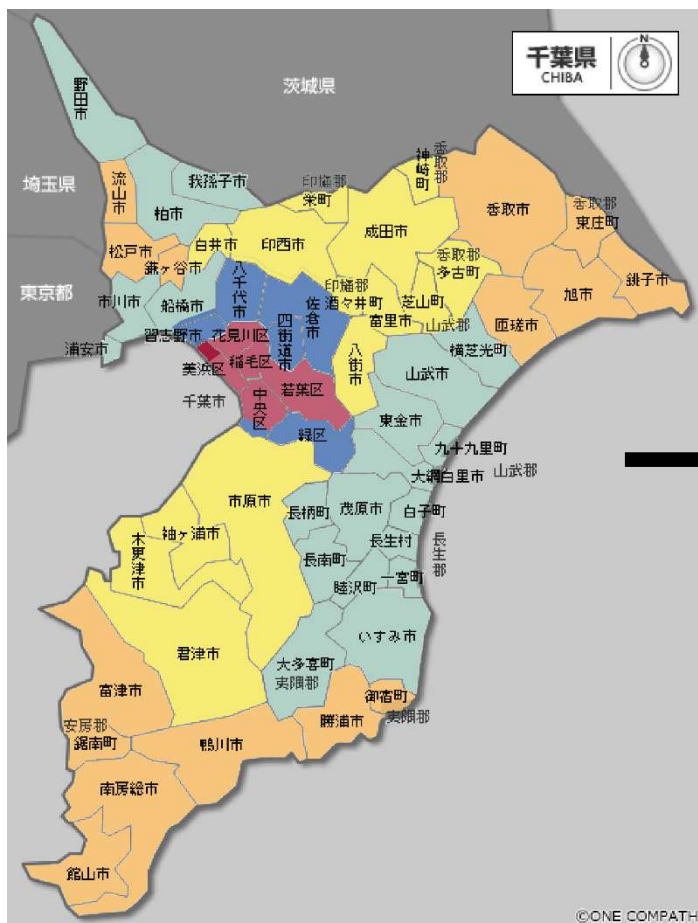
新千葉 RC 質問 2020.10.16

クラブ数も人数も同じであるのに、現第 12G に隣接している幕張の 3 クラブでなく、地理的に離れている現第 4G の 3 クラブが一緒になることに納得のいく説明をいただきたい。

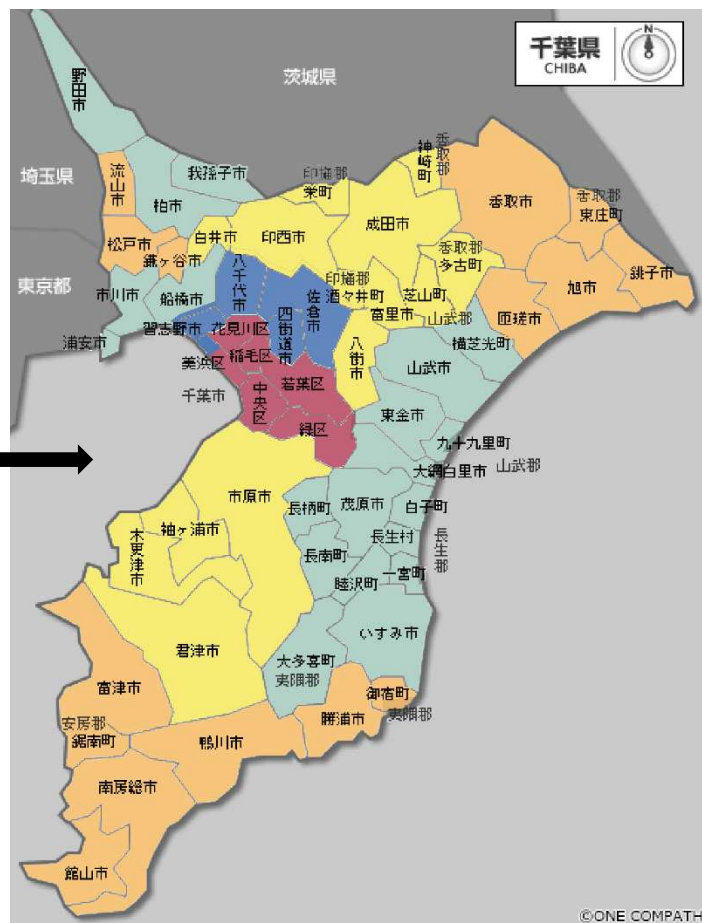
漆原 G 回答（地区グループ再編会議からのコメント） 2020.10.23

- 1) 現第 4 グループが 3 分割されるとの事だが、千葉西 RC の子クラブで、千葉幕張 RC の親クラブである千葉港 RC が新第 3 グループのクラブ数を 8 にするため、第 4 グループから第 3 グループに移籍。
- 2) 市原の 2 RC は、新第 6 グループを 8 クラブにすると共に、新第 5 グループを 7 クラブとするために新第 5 グループへの移籍が避けられなかった。
- 3) 結果として、第 4 グループの残り 3 クラブと第 12 グループ 7 クラブを合体。

A 現在の地区案
(第4Gが不自然に分断されている)



B 幕張3クラブと第4G3クラブを入れ替えると
(地理的に自然になる)



誤解のないように申し上げますが、当クラブは、⑥の入れ替えた編成がいいと考えている訳ではありません。ただ、現在の編成があまりにも不自然ではないですか？と申しているのです。

グループ再編会議の回答では、唐突に千葉港 RC の親子関係に触れていますが、千葉北 RC については考慮されないのは不公平ではないですか？ また、鎌ヶ谷 RC ・ 多古 RC も親子関係は考慮されず、地理的要因とクラブ数、人数合わせだけが行われたように見受けられます。

「結果として、第4グループの残り3クラブと第12グループ7クラブを合体」とありますが、検討もせず現第4Gを動かすことありきで「結果として」というのは杜撰ではないですか？

このように不明瞭であれば、月信特集号の最終頁「質問・意見・抗議に関する見解 11」にあるように「分断されないグループに地区の要人(?)がいるため情実があるのでは？」という疑念を抱かれても仕方ないのではないのでしょうか。

漆原ガバナーが処々で、「新千葉 RC の考えが変わってきている」と発言されていると聞いています。何を根拠におっしゃっているのかわかりませんが、当クラブは当初から現在までずっと、「筋を通し、皆が納得する形で進めるべき」という考え方は微塵も変わっておりません。

手法にも内容にも不備のある今回のグループ再編成は、実施時期を延期し再考することを要望いたします。

第 3 グループガバナー補佐に関するご報告

新千葉ロータリークラブ 会長 飯高 健

2020 年 12 月 17 日、現第 3 グループ 7 クラブ及び第 4 グループ千葉港 RC 会長宛に、漆原ガバナー、梶原ガバナーエレクト連名にて「2021-22 年度第 3 グループガバナー補佐として 清田浩義氏（千葉 RC 所属）を仮委嘱する」との内容の文書が届きました。

第 3 グループからは、千葉 RC 清田氏、千葉幕張 RC 始平堂氏、当新千葉 RC 星の 3 名の推薦がありましたが、同年 11 月 18・20 日に行われた地区指名委員会の面接にて、始平堂氏、星が辞退したため、結果清田氏に決定したようです。

これにより、本年度に続き 2 年連続で千葉 RC からガバナー補佐が輩出されることとなります。

始平堂氏と星の辞退は、下記の理由によるものです。

始平堂氏が千葉幕張 RC から推薦された経緯は、「新千葉 RC の順番であることは承知していたが、梶原 GE より始平堂氏に直接依頼があり、新千葉 RC とは話がついているということであったので、クラブに推薦を出してもらった」とのことです。（推薦締切同年 8 月 20 日）

しかし、梶原 GE から当クラブに対してガバナー補佐に関する話があったのは、9 月 2 日の例会時が初めてで、その時には始平堂氏に決めているとの内容でした。事前に当クラブの意向を確認する手続は一切ありませんでしたので、正に寝耳に水の直ちに承服しがたい報告でした。

そのため、始平堂氏、星の 2 人の間で事実の確認を行い「梶原 GE が嘘をついていたということであり、そのような状況では役職に就くことはできない」という結論に至ったとのことでした。

頭書の文書が送付される約 2 週間前の同年 12 月 2 日、梶原 GE が当クラブ例会にお越しになり、同年 9 月 2 日当クラブ例会でのご自身の発言の数々に対し謝罪の言葉を述べられた上で、「ガバナー補佐に新千葉 RC から星氏に就任していただきたい」との発言がありました。

おひとりでお越しになり、ご自分の非を認め謝罪されたことに対しては一定の敬意を表しますが、指名しない旨を伝えられてから既に 3 ヶ月も経っており、その間、とってつけたように第 3 グループ各会長からのヒアリング、候補者面接までを行い、結果、本命の始平堂氏の辞退の後に、消去法での就任依頼と謝罪をされたところで、到底受け入れられるものではありません。もし仮に、本当にお気持ちがあるのならば、早々に、少なくとも地区指名委員会に事態の収拾を依頼する前に伺いたかったです。

当クラブの総意としましても、このような状況の中で当クラブ会員がガバナー補佐に就任することは望んでおりませんので、結果に対して申し上げることは何もありません。

しかしながら、漆原ガバナー、梶原ガバナーエレクトの姿勢、これまでの発言に対しては、何も納得していませんし不信感が募るばかりです。

今後はリーダーとして、事実即した丁寧な手続を経て、且つ、誠意を持って物事に対応していただくことを希望します。

最後になりましたが、当クラブに対し 17 クラブと 14 名の会員の皆様から激励のお言葉を頂きました。ロータリーの友情に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。